



Clinical role of early dynamic FDG-PET/CT for the evaluation of renal cell carcinoma

著者名	中島 怜子
発行年	2015-12-18
URL	http://hdl.handle.net/10470/31577

主論文の要旨

Clinical role of early dynamic FDG-PET/CT for the evaluation of renal cell carcinoma

(ダイナミック ^{18}F -FDG PET/CT による腎細胞癌診断に関する研究)

東京女子医科大学大学院

内科系専攻 画像診断学・核医学分野

(指導：坂井修二教授)

中島 怜子

European Radiology に掲載予定

[目的]FDG 投与直後の早期相を用いて、腎細胞癌(RCC)術前診断における PET/CT の有用性を検討した。[対象]2013 年 9 月から 2014 年 11 月に RCC と診断され、術前にダイナミック PET/CT を施行した 100 症例 107 病変。FDG 投与直後 10 分間の PET/CT を早期相とし、75 分後の通常相も撮像。各時相で視覚評価、定量評価を行い、これらの各指標と、組織型(淡明細胞癌(CCC)と非淡明細胞癌(N-CCC))、悪性度(high grade 群:Fuhrman の異型度分類 *grade3-4*, low grade 群:*grade1-2*)、病期診断(high stage 群:stage 3-4, low stage 群:stage1-2)、静脈(V)浸潤、リンパ管(Ly)浸潤の有無を比較した。[結果]早期相では CCC が N-CCC より定量評価で高値を示し統計学的有意差を認めた。通常相では high grade, high stage、リンパ管、静脈浸潤を有する群がそうでない群より定量評価で高値を示し、視覚評価では陽性群が有意に多かった。[結論]ダイナミック FDG-PET/CT は、RCC の組織型、悪性度、病期診断に有用と思われた。